

～新年のご挨拶～

東海病院長 山本 英夫



新年あけましておめでとうございます

一昨年に続き、昨年も新型コロナ感染に振り回された一年でした。そして病院への「受診控え」という言葉もよく聞かれました。病院経営にとって痛手ではありますが、何よりも皆さんにとって良くない結果にもつながります。

がんの治療成績の目安として5年生存率がよく使われますが、がんの手術から5年経ったら、もう治ったと決め込んでがんの手術後定期検診を先延ばししたり、検査をキャンセルしたりしていませんか。

確かに5年経過してから見えなかった癌が出てきたりすることは少なくはなりませんが、がんの種類や進行度によっては、5年よりもっと長期の経過観察が望ましいものもありますので、担当医の指示をしっかりと守り、新型コロナ感染が心配だからといって通院や検査の自己中断は止めましょう。

また、同様にがん検診や人間ドックなども控えたいという思いが出るかもしれません。先日、日本対がん協会から、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんなどの2020年度の診断数が、19年度より9.2%も減ったという発表がありました。がんが減ったとは考えにくく、コロナ禍で検診を控えた結果、通常なら見つかったがん（5つのがんだけで全国約4万5千件）が見逃されていると推計されています。さらに早期がんの診断の減少と、発見時治癒不能な進行がんの増加が指摘されています。

今は、ほとんどの病院は感染対策を徹底しております。当院も皆さんに安心してがん検診、人間ドックを受検していただけるよう、また入院生活を過ごしていただけるよう、院内検査体制（PCR、抗原検査）を整え感染対策に努めておりますので、通院控えや検診控えはなさらないようお願いいたします。

最後に皆様にとって、良いお年になりますことをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和4年1月1日